

# 会派視察報告書

会派の視察における結果について、下記のとおり報告します。

令和 4年 8月 5日

光市議会議長 中本和行 様

光市議会 会派「こう志会」 萬谷 竹彦  
笹井 琢  
中村 譲  
西村慎太郎

- 1 日 時 令和4年7月26日(火) 9時~12時
- 2 場 所 山口県周防大島 西蓮寺・旧普門寺・明治百年記念公園等  
第二奇兵隊関係施設 及び 山口県周防大島庁舎
- 3 テーマ 第二奇兵隊  
周防大島における足跡と明治維新への影響
- 4 講 師 普門寺住職 永本隆道  
周防大島観光ボランティアガイドの会 光田伸幸
- 5 視察結果 別紙のとおり

日時	令和4年7月26日(火) 9時～12時	
場所	山口県周防大島 第二奇兵隊関係施設	
テーマ	<b>第二奇兵隊</b> 周防大島における足跡と明治維新への影響	
講師	普門寺住職 永本隆道 周防大島観光ボランティアガイドの会 光田伸幸	

旧普門寺

**視察目的** 江戸時代末期、光市の石城山で鍛錬し幕府と戦った第二奇兵隊について、光市外での活動は知られていない。戦地となった周防大島町で明治維新150年を記念した書籍が纏められた。これを機に現地で視察と学習を行い、光市固有の歴史文化に付帯する事実を確認し価値を高める。

**視察内容**

1. 第二奇兵隊の成り立ち ※光市と周防大島の関係を中心に

- ・僧月性が海防五策や農兵隊構想を説く 遠崎の妙円寺に私塾「清狂草堂」開く 大洲鉄然・世良修蔵ら学ぶ  
月性は吉田松陰と親交を保つも42才で死去
- ・高杉晋作が身分を問わない奇兵隊を創設
- ・長州藩が禁門の変で敗れる 第一次長州征伐により立野村領主清水親知が萩で切腹
- ・高杉晋作と伊藤俊輔(懋)らが下関で挙兵 長州藩論を佐幕から倒幕へ導く
- ・周防大島で大洲鉄然・世良修蔵・檜崎剛十郎らが真武隊を結成
- ・他部隊と合流し室積で南奇兵隊となる 総督は白井小介 作州浪人立石孫一郎が加わる 専光寺から普賢寺に本陣を移す
- ・石城山に転陣 長州藩公認の第二奇兵隊となり幕府との戦いに備え訓練する
- ・小規模な脱走事件発生 清水親春(親知の義親)が総督、難波軍庵が参謀に 林半七が着任
- ・立石孫一郎(倉敷の大橋敬之助)が檜崎剛十郎を殺害 大島出身の櫛部坂太郎ら百余名が脱走 大島で武器を補充し倉敷浅尾騒動を引き起こす しかし参加者は捕縛処分される



妙円寺清狂草堂(柳井市遠崎)

第二奇兵隊を再編成 田布施の専福寺に本陣を移し第二次長州征伐に備える



**僧 月性** (一八一七～一八五八)  
善王攘夷、海防論を唱え諸国を遊説。妙円寺境内に私塾「清狂草堂(時習館)」を開設。遠近より入塾する者が集まり、明治維新の原動力となる多くの門下生を送り出す。すぐれた詩人で多くの傑作があり、「男児立志の詩」が有名である。



**高杉 晋作** (一八三九～一八六七)  
文久三年、下関で奇兵隊を立ち上げる。大島口の戦いでは海軍総督として「内寅丸」に乗り込み、前島沖に停泊する幕府艦隊を夜襲。第二奇兵隊と連携して周防大島を奪還。戦いを勝利に導く。(写真 下関市立東行記念館蔵)



**檜崎 剛十郎** (一八三八～一八六六)  
第二奇兵隊書記兼参謀として活躍中、大島口開戦前に起こった第二奇兵隊の倉敷代官所襲撃事件を止めようとして、維新を待たず二十九歳を一期に斬殺された。明治三十五年、功績に対して従五位が贈られている。詩文を愛した文人型の武人であった。



**世良 修蔵** (一八三五～一八六八)  
萩野出身で、第二奇兵隊軍監の一人として、大島奪還の作戦を指揮、勝利に導く。明治になり奥羽鎮撫総督参謀として出陣中、福島で捕えられて斬殺された。高杉晋作が上海から持ち帰ったピストルの一丁を贈ったという説もあり、晋作との親交が深かった。



**大洲 鉄然** (一八三四～一九〇二)  
郡内に壮士を募り真武隊を結成。僧侶で護国団等も組織。四境の役では、法衣を脱いで陣頭指揮し、大島の苦戦の情報を山口政事堂に知らせた。明治になり、島地黙雷らと共に本山改革に努め、本願寺参政になり、そのうち執行長に進んだ。久曾築港にも尽力した傑僧である。

「四境の役大島口の戦い」主な人物

## 2. 周防大島における足跡 ※慶応2年6月2日～20日

- ・幕府軍艦が上関を砲撃 松山藩兵が大島油宇に上陸
- ・幕府兵が久賀を、松山藩兵が安下庄を占領する  
大洲鉄然は早駕籠で山口へ 大島郡兵は遠崎へ退く
- ・遠崎で軍議 第二奇兵隊軍監の林半七が戦略を練る  
高杉晋作が軍艦丙寅丸で夜戦を仕掛ける
- ・第二奇兵隊と浩武隊に加え、清水家・阿月浦家・三丘  
穴戸家の家臣団が周防大島へ上陸
- ・第二奇兵隊は西蓮寺に駐屯 普門寺で幕府兵に勝利
- ・清水峠と三石で松山藩兵を撃退 源明峠・笛吹峠で  
も大島農商兵が勝利 松山藩兵は安下庄から撤退
- ・各隊が久賀を包囲し交戦 幕府兵は船で広島へ退散
- ・世良修蔵は島に残された松山人夫に路銀を渡し開放



西蓮寺



旧普門寺（帶石観音）



笛吹峠

## 3. 明治維新への影響、第二奇兵隊士のその後

- ・江戸時代における徳川幕府と国内勢力の戦いで、初めての勝利
- ・最新式ミニエー銃や散兵戦術などの有効性が実証された
- ・海軍力で劣る長州藩だったが、幕府艦隊を広島湾に足止めし四境戦争の勝利へ繋ぐ
- ・幕府の命にも関わらず土佐藩・宇和島藩・大洲藩・高松藩は出兵せず、弱体化が明白に
- ・第二奇兵隊はその後に兵庫駐屯（伊藤俊輔が隊への加入を申し出るも、林半七が断る）  
京へ上洛し御所の門を潜る 鳥羽伏見の戦いで幕府側に勝利 大阪城に入城

大洲鉄然 西本願寺へ 明治政府の廃仏毀釈に反対し仏教を守る  
 世良修蔵 新政府奥羽鎮撫総督府下参謀として会津藩と交渉するも、暗殺  
 白井小介(新) 北越戦争へ従事 奇兵隊最後の軍監就任 平生町で飯山塾を開設  
 林半七(友) 九戸県知事、貴族院議員、枢密顧問官となる  
 難波覃庵 立野村に二階建の向山文庫を設置 教育者かつ画家として過ごす

## 4. 周防大島町における取組

- ・明治35年、檜崎剛十郎に従五位が与えられ顕彰碑を建立
- ・昭和43年、激戦地となった久賀に明治百年記念公園を整備
- ・平成24年に説明看板を設置



檜崎剛十郎顕彰碑



明治百年記念公園

- ・平成28年に明治維新150年を記念しシンポジウム開催 パンフレットや動画を作成

[https://www.town.suo-oshima.lg.jp/kyouiku-syakai/sikyounoeki/20151101\\_1.html](https://www.town.suo-oshima.lg.jp/kyouiku-syakai/sikyounoeki/20151101_1.html)

- ・近年「明治維新は周防大島から始まった」との論説が普及：冊子しま241号 H27.3

## 質疑応答

Q 双方の軍勢はどれだけか？ 戦況や被害はどうだったか？

→以下のとおり。山口県史史料集4には第二奇兵隊113名、清水一手33名と記載。幕府兵は西洋式訓練を行っていたが、松山藩兵は武者姿にゲベール銃と装備貧弱。久賀や安下庄の集落は焼かれた。酒屋や松山出身者の家は焼かれていない。

### 長州軍・幕府軍の武器・軍事力・被害の比較

人数	長州軍 人数：約 1,400 人	幕府軍 人数：約 2,800 人
軍艦	 <p><b>丙寅丸 (へいゐんまる)</b> 蒸気内車、鉄製 94t 長さ 40m・幅 5.4m</p> <p>慶応2年、高杉晋作が独断でイギリス商人グラバーより購入。購入した年の干支にちなみ丙寅丸と命名。</p>	 <p><b>富士山丸 (ふじやままる)</b> 蒸気内車、1000t 長さ 68m・砲 8 門</p> <p>他：大江丸、翔鶴丸、旭日丸、第二長崎丸、第一八雲丸、明光丸、震天丸</p>
使用銃	 <p>ミニエー銃 火縄銃 ゲベール銃</p> <p>ゲベール銃は両軍とも使用</p> <p>ミニエー銃の弾丸は、先端の尖った長円筒形で弾道は一定していた。ゲベール銃の有効射程距離がおよそ100mに対しミニエー銃はその3倍のおよそ300mあり、両軍が遭遇した場合、ミニエー銃使用の長州軍が射撃を開始しても、ほとんどがゲベール銃使用の幕府軍は、有効射程距離に近づくまでの200mは無抵抗であり、その差は歴然としている。</p>	
被害	<p>戦死者：12名、負傷者：38名 焼失家屋：久賀(1001軒) 安下庄(628軒)</p>	<p>戦死者：20名、負傷者：38名</p>

Q 大島の人々はどのように対応したのか？

→大島郡兵や村上一族が警備していたが、幕府側の上陸が始まると本土の柳井遠崎まで戦略的撤退した。長州藩の第二奇兵隊等が周防大島に上陸した後、住民は炊き出しや石を投げたり大声を出すなどして協力した。若干だが幕府兵や松山藩兵に内通した者もあり、戦い終結後に処罰された。

Q 明治維新150年を記念して周防大島内で作成された資料に、高杉晋作が室積で詠んだ漢詩「室積夜泊夢家翁」の家翁とは祖父春豊であると書かれてるが、根拠は？

→春豊は上関代官所に勤めており大島代官所も兼務していた。春豊が記した書類が残っている。室積の地で夢に出てきた家翁とは、祖父春豊との解釈が自然である。

Q 立石孫一郎が引き起こした第二奇兵隊脱走事件の参加者は殆ど処罰された。しかし周防大島出身者の名前は明治百年記念公園に記されている。なぜか？

→僧侶であった大洲鉄然の勧誘により第二奇兵隊に参加、脱走事件に同行し罪に問われた者達の名前。大洲鉄然が明治26年に建てた石碑に記載。白井小介も明治24年に第二奇兵隊戦死者の名前を石碑に残しており、この場所が明治百年記念公園として整備された。



## 所感と光市政への反映

### 萬谷竹彦

光市においても、第二奇兵隊が石城山に本陣を構えており、大島と関係があるのは知っていましたが、光市の歴史の上に大島の歴史を重ねることができ、勉強になったと同時に、感動もしました。大幕府軍からの奪還がなければ戊辰戦争にも明治維新にもつながらなかったのではないかと感じています。歴史を重ね合わせ、光市の歴史を後世にしっかりと受け継いでいきたい、それが光市の文化の発展につなげて行きたいと思いました。

### 笹井 琢

3年間に渡る対幕戦争の起点:周防大島、第二奇兵隊脱走事件(倉敷浅尾騒動)の舞台:倉敷市では、明治維新150年の機会に調査研究が進んだ。光市も平成27年に第二奇兵隊史跡巡りパンフレットを作成しており、これに鳥羽伏見の戦いを加えた一連の流れを作り上げたい。光市固有の歴史文化を顕彰することは、地域の活力に繋がる。光高校時代のクラス担任であった光田伸幸先生の講義を聞くことができ幸せです。

### 中村 譲

この度の視察により、普門寺の住職永本隆道様と周防大島観光ボランティアガイドの光田伸幸様に、第二奇兵隊が参加した大島での戦いのお話を聞き、我々の先祖が関わる戦いの歴史に思いを馳せる素敵な時間を頂きました。近年では明治維新は周防大島から始まったという論説もあるようで、現在の日本にとっても、とても大事な戦いが繰り広げられた場所でもあったんだなあと思いました。そういったことから、もっと光市においても第二奇兵隊を取り上げて欲しいと切に思いました。

### 西村慎太郎

第二奇兵隊について別の視点から認識を深めることが出来た。光市で石城山に本陣を置き訓練が行われていたという程度の認識であったが、大島では四境戦争の舞台となっていたためか、地元の熱量の違いを感じた。当時の幕府に対して初めて勝利した戦いとして歴史的に大きな意義がある。今後は、点となっている第二奇兵隊の歴史に関して関係各市が連携を取り、時系列ごとに情報が分かりやすく纏め後世に伝えるべきものだと感じた。

(注)本報告書中の地図や図表は、以下資料より転載しています

「四境の役大島口～維新の戦い開戦の島から～(改訂版)」 永本隆道 H28

「四境の役大島口の戦い」 四境の役150周年記念実行委員会 H28

また、以下資料の記載内容を参考にしています。

「大島口の戦い史跡巡り」 周防大島町文化振興会橘支部 H29

「第二奇兵隊史跡めぐり」 光市教育委員会 H27

「第二奇兵隊」 曾我 博 H17

「世良修蔵」 谷林 博 S49

「檜崎剛十郎詳伝」 中野正行 S47